

2008 年冬のボーナス支給予想額、40 代では約 13%減

約 8 割が自由に使えるお金が減っていると回答

消費者の購買意欲は高くも財布の紐は更に固く、ボーナス商戦は厳しさを増す

詳細結果: <http://kakaku.com/research/backnumber024.html>

株式会社カカコムが運営する購買支援サイト「価格.com (<http://kakaku.com/>)」が実施したユーザーへの意識調査「価格.comリサーチ」より、第 24 回調査『冬のボーナス 2008-使う?貯める?』から、結果を一部抜粋の上、ご案内します。株安や物価高などの金融不況により、企業業績も悪化しボーナス支給額も減少が予想される中、「価格.com」でも消費者の方々に、今年の冬のボーナスの支給予想額や使い道などのアンケート調査を行ないました。昨年冬に、同様に実施した冬のボーナスに関する調査結果とも比較しています。

2007年冬のボーナスに関する調査結果: <http://kakaku.com/research/backnumber018.html>

【調査方法・ユーザーパネルについて】

調査エリア:全国 調査対象:価格.comID 登録ユーザー

調査方法:価格.com サイトでの Web アンケート調査

回答者数:4,462 人 男女比率:男 86.5%:女 13.5%

雇用形態:正社員:64.6%、契約社員:3.6%、派遣社員:2.2%、パート・アルバイト:4.7%、

自営業・個人事業主など:10.7%、学生:2.4%、主婦:4.6%、その他:7.2%

調査期間:2008 年 11 月 18 日~2008 年 11 月 25 日

調査実施機関:株式会社カカコム

支給予想額:昨年比 7.5%マイナスの平均 58 万円、40 代は 12.9%も落ち込む

今年の冬のボーナスの支給予想額を聞いた。あくまでも予想ではあるが、前年を大きく割り込んでいる。全体平均で見ると、昨年同期の 62.3 万円に比べて約 4 万円マイナスの 58 万円となっており、昨年と比べて 7.5%の下落となっている。

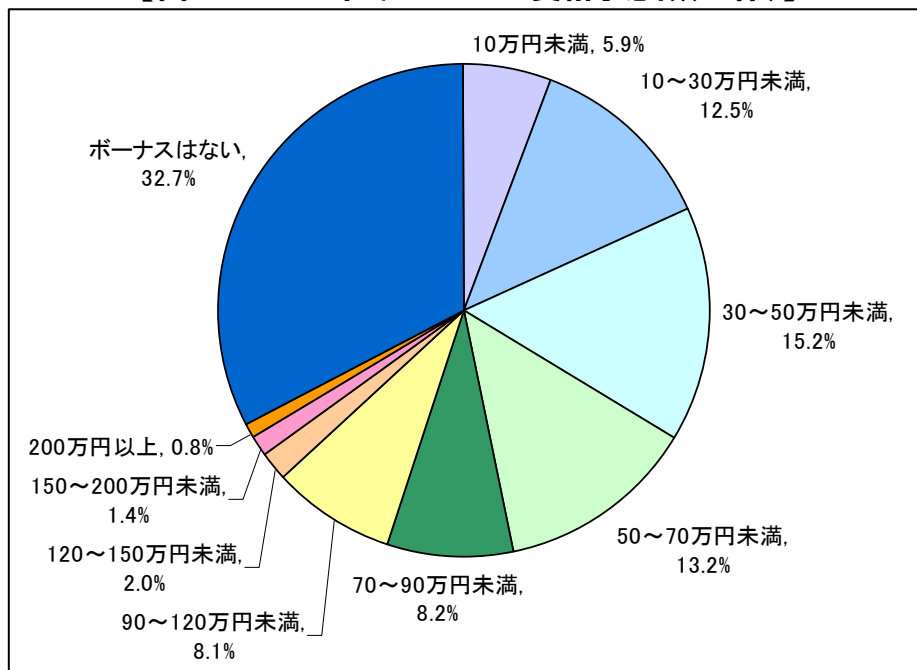
男女別、年齢別でも、すべての層で予想額は昨年を下回り、全体的なボーナスの減少傾向が見て取れるが、中でも最も下落率が大きかったのは 40 代で、昨年と比べると 12.9%減少している。金額にすると 8.4 万円減少する計算となり、働き盛りのお父さんの懐を直撃しそうだ。

【図 1. 今年の冬のボーナスはどれくらい支給されそうですか?(総支給額)】

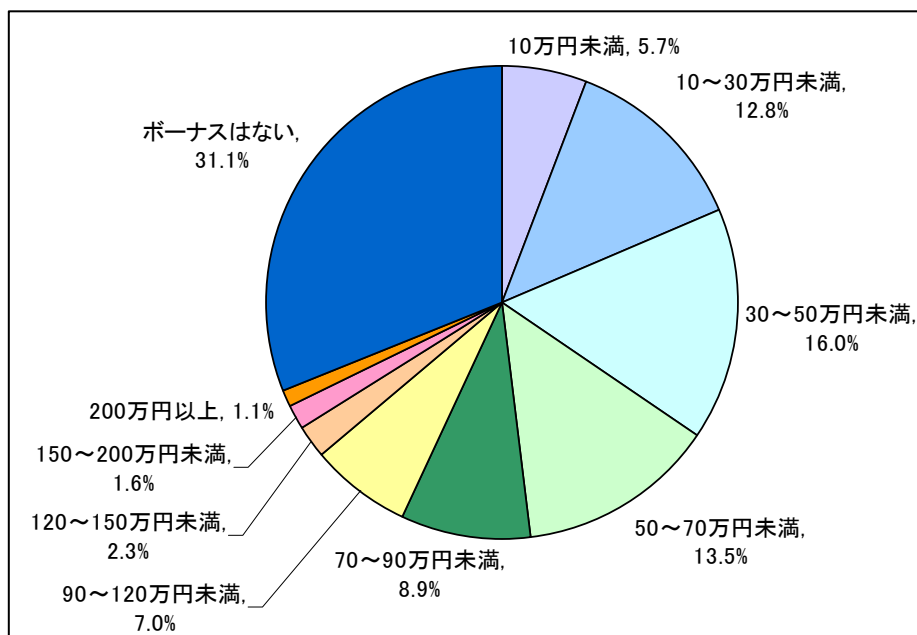
		(万円)			
		2008冬	2007冬	増減	前年比
全体平均		58.0	62.3	-4.3	-7.5%
性別	男性	59.7	64.0	-4.3	-7.1%
	女性	45.2	48.1	-2.9	-6.4%
年代別	20代	38.5	43.0	-4.5	-11.7%
	30代	48.5	53.0	-4.5	-9.3%
	40代	65.2	73.6	-8.4	-12.9%
	50代	77.7	84.9	-7.3	-9.3%
	60歳以上	46.1	51.0	-4.9	-10.6%
家族構成別	単身	41.8	47.5	-5.7	-13.7%
	夫婦のみ	57.5	63.9	-6.3	-11.0%
	夫婦と子供	66.7	69.7	-3.0	-4.5%
	3世代同居	56.6	61.3	-4.8	-8.4%

2007 年冬のボーナス 調査結果との比較

【図 2. 2008 年冬のボーナス支給予想額(全体)】



【図 3. 2007 年冬のボーナス支給予想額(全体)】



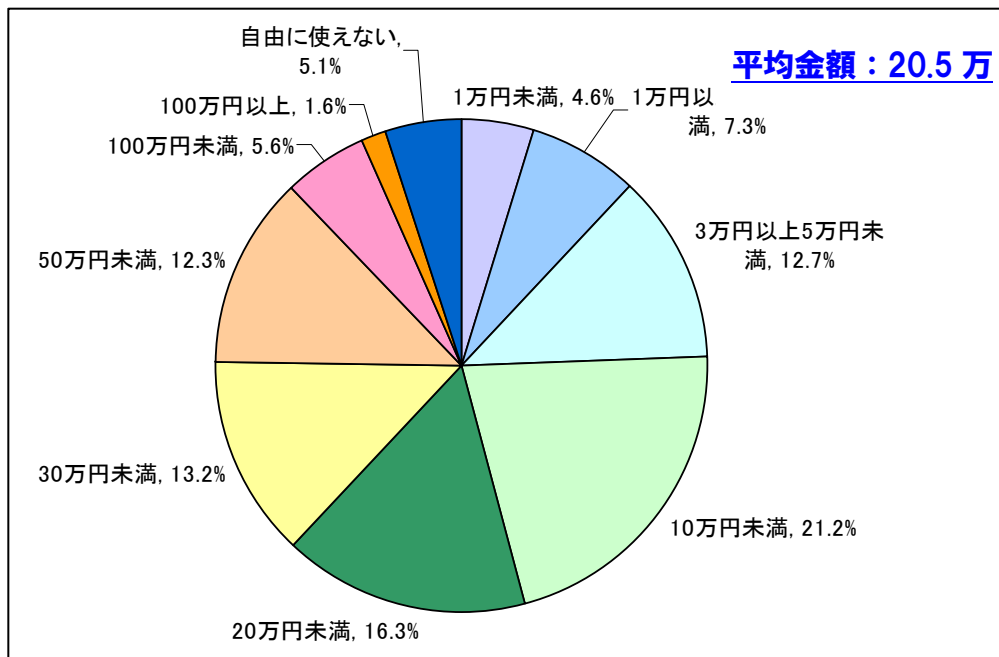
支給予想額のうち自由に使える金額の平均:3分の1程度の20.5万円

支給額から生活費やローン返済などで必要となる金額を差し引いた、自由に使える金額がどれくらい残りそうかを聞いた。

これによれば、平均金額は20.5万円。支給予想額が58万円であるから、自由に使えるお金はそのうちの3分の1程度ということになる。自由に使えるお金は少ないという印象だ。

金額で見ると、もっとも多いのが「5~10万円」で21.2%。次いで、10~20万円が16.3%、20~30万円が13.2%と続く。つまり5万~30万円だけで約半数という結果だ。

【図 4. 税金、ローン返済・生活費の補填などを除いた、実際に自由に使える金額をお選びください】

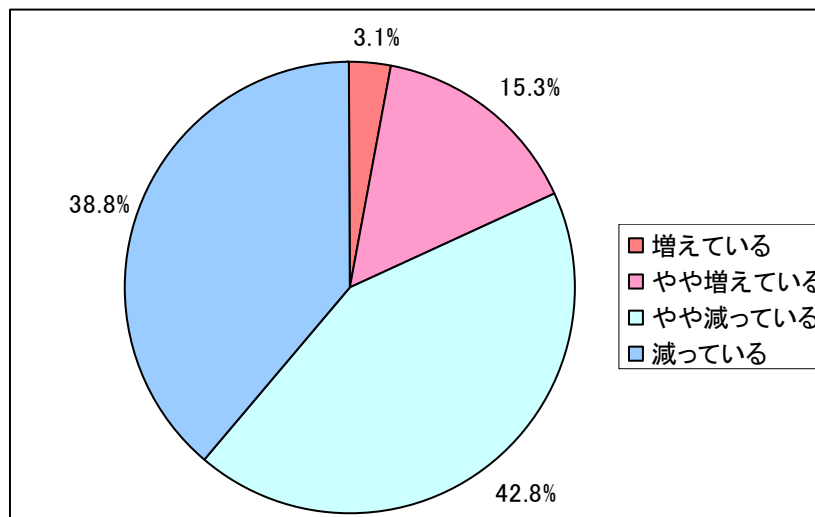


8割以上の方が「自由に使えるお金が減っている」と回答

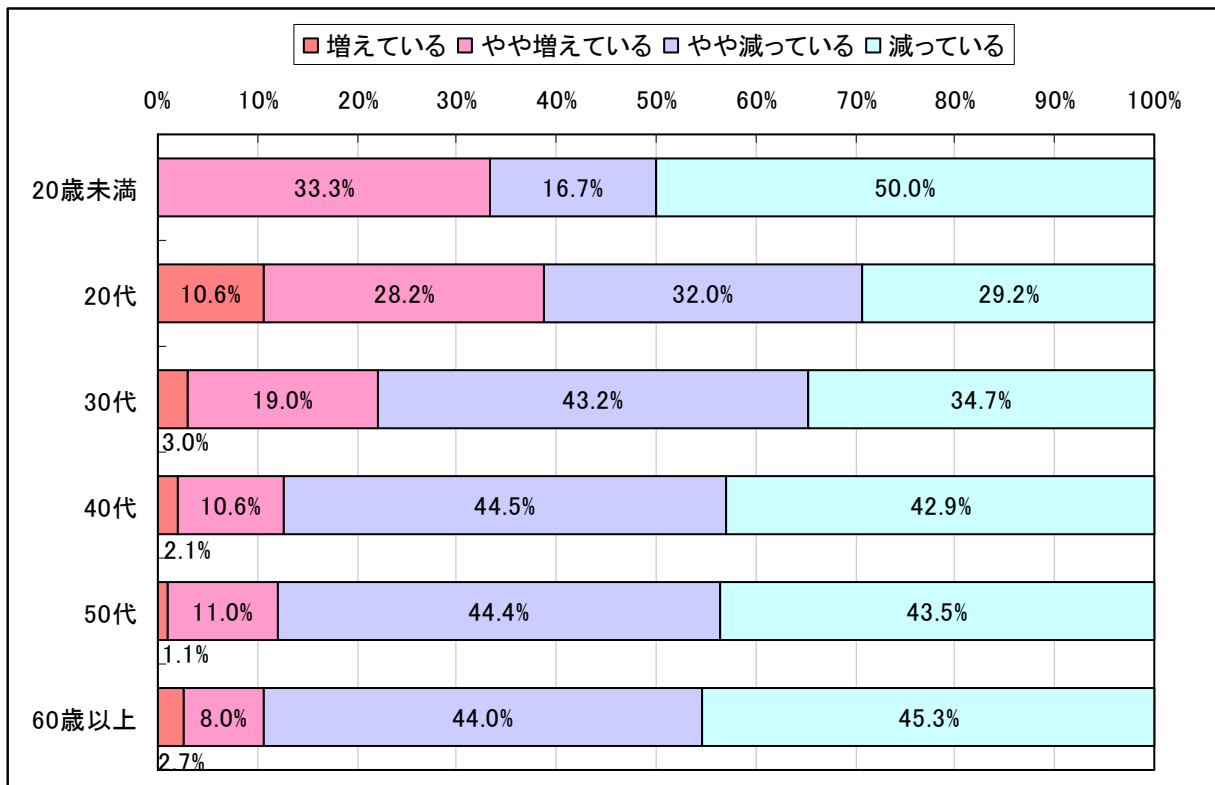
図 4 で質問した「自由に使えるお金」が昨年に比べて、増えているかどうかをうかがった。予想通りではあるが「増えている」と答えた人は 2 割以下。それ以外の 8 割以上の方は「減っている」と答えている。減っていると答えた人のうち「やや減っている」と「減っている」はおおよそ半々で、若干減っている印象を持っている人が多いことがわかる。

これを年齢別に見ると、その様子がもう少し鮮明に浮かび上がってくる。「自由に使えるお金が増えた」と回答したのは、若年層(20 歳未満～20 代)に多く、年齢が上がるにつれ減っていく傾向にある。特に「増えている」が急激に減るのは 40 代からであるが、これには家族構成などが大きく影響していると思われるのが妥当だろう。30 代までは割合が高い独身者の場合、ボーナス自体の支給額は多少減っても、家計に大きな影響はない。それが 40 代以降になると既婚率も高く、子供も大きくなっていくので教育費などの出費も増えてくる。さらに加えて、図 1 で見たように、もっともボーナス支給額が下落しそうなものが 40 代であることを考え合わせると、40 代のお父さんが大黒柱となっている家庭が、家計的にはいちばん影響を受けそうだ。

【図 5. 実感として、ボーナス支給額のうち、自由に使えるお金は昨年と比べ増えていますか？ それとも減っていますか？】



【図 6. 実感として、ボーナス支給額のうち、自由に使えるお金は昨年と比べ増えていますか？
それとも減っていますか？(世代別集計)】



冬のボーナスに影響が大きいと思われる要因:物価高が51.5%で1位

今年の冬のボーナスに影響する最も大きな要因を聞いたところ、「物価高」(51.5%)が1位となった。

今年は原油をはじめ、食料品でも値上がり相次ぐなど、物価高が家計を直撃した結果、消費行動そのものの冷え込みにつながったと考えられている。例え昨年と支給額が変わらなくても、物価高のためにボーナスからも支払う金額が増えるということも、自由に使えるお金の減少に影響していると考えられるだろう。

次いで多かった回答が「株安」(42.2%)と「サブプライムローン問題」(41.1%)で、現在の世界的な金融不況の影響を懸念する声が強い。また「円高」「原油高」といった、日本の得意分野といえる製造・輸出に関連する問題も3割以上の回答者が指摘しており、現在の日本国内の経済低迷を裏付ける形となった。

【自由に使えるお金についての満足度】

【冬のボーナスに影響が大きいと思われる項目をお選びください (複数回答)】

詳細結果はこちら <http://kakaku.com/research/backnumber024.html>

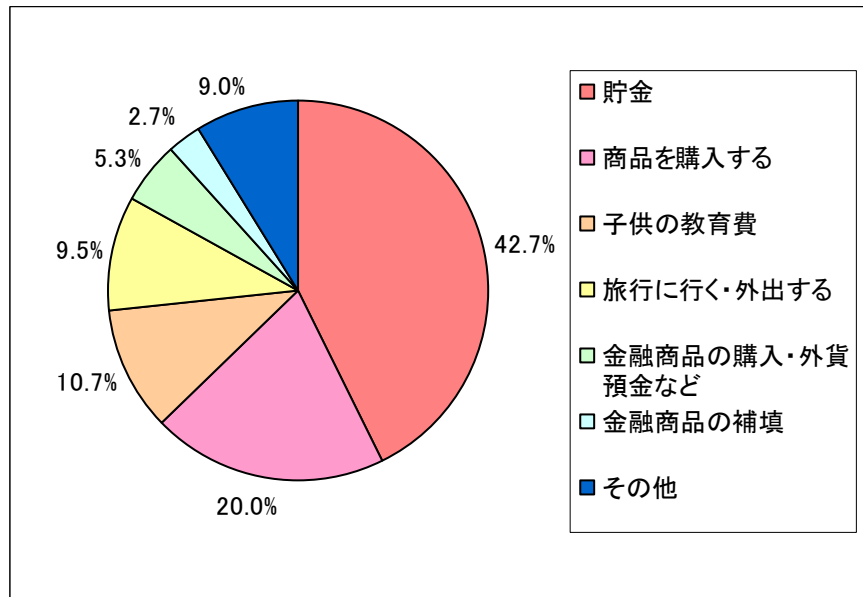
冬のボーナスの使い道:1位は「貯金」で8.8万円 商品購入にかけられる費用はわずか4.1万円!

ボーナスでもらえる金額のうち、自由に使えるお金をどのように使うかを質問した。

圧倒的に多かったのは「貯金」で42.7%。ボーナスの使用用途として「貯金」は常にナンバーワンの位置を占めているが、今年の調査でもダントツの1位となった。図4で見たように「自由に使えるお金」の平均金額が20.5万円とすると、約8.8万円が貯金に回ることになる。ちなみに昨年の調査では「貯金」の割合が支給額全体の29.5%で、平均にすると約18.4万円。その差は10万円近くになり、ボーナスの下落分がそのまま貯金額の減少につながっている形だ。

その一方で、「商品を購入する」と答えた割合は20.0%で、平均にするとわずか4.1万円。大型家電やパソコンを買うにはかなり厳しい金額であることから、今年のボーナス商戦は相当厳しいと予想される。

【図 7. 自由に使えるお金に対して、どれくらいの割合でお金をかけるおつもりですか？】



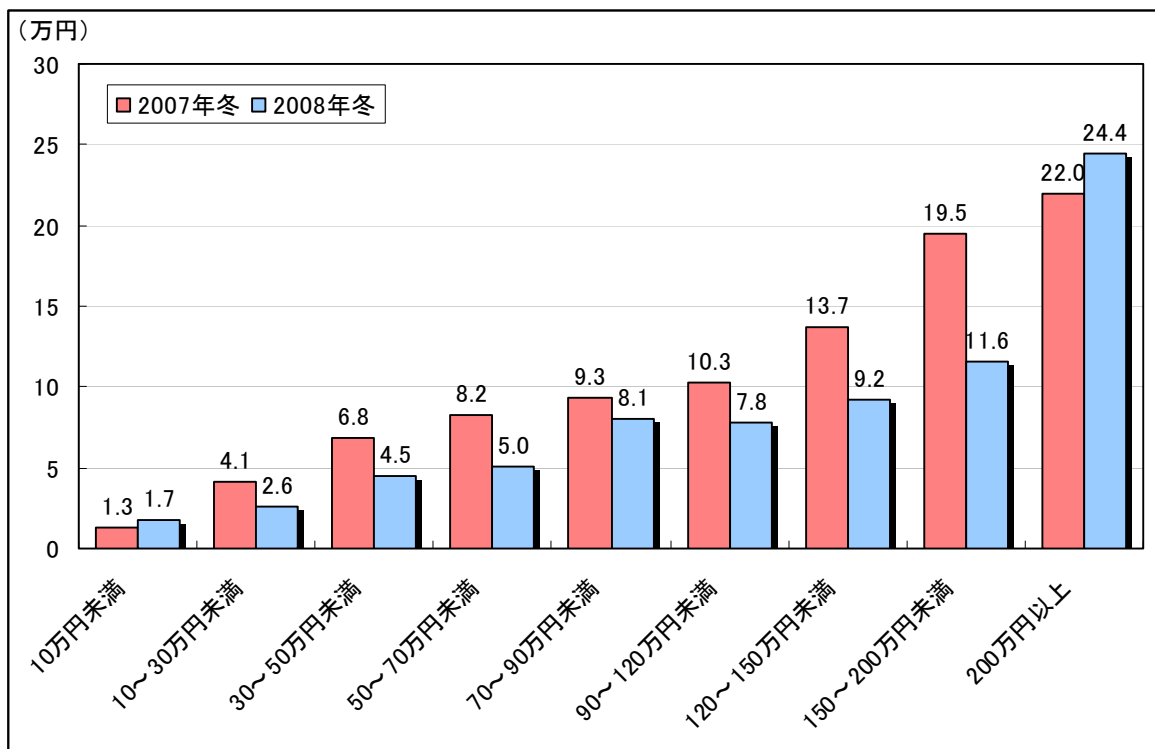
冬のボーナスで商品購入にける金額:全体で大幅に減少、消費行動に大きく影響か

ボーナスの中で「商品購入」にかけられる金額を、支給予想金額別にまとめたのが以下のグラフだ。支給額で「10万円未満」と「200万円以上」の両端を除く全ての金額帯において、商品購入にかけられる金額が大きく減少していることがわかる。

支給額のボリュームゾーンである「30～50万円」では、商品購入にかけられる金額の平均はわずか4.5万円。これに「10～30万円」「50～70万円」を合わせて全体の半数を占める金額帯では、商品購入にかけられる金額は2.6万～5万円となり、これはかなり少ないと言わざるを得ない。逆に、10万円以上をかけられるのは、ボーナス支給額が150万円以上という高額所得者に限られる。半数を占める消費者が財布を引き締めていることが、全体の消費行動に大きく影響してくるのは間違いないだろう。

【図 8. 自由に使えるお金に対して、どれくらいの割合でお金をかけるおつもりですか？

商品の購入にける金額(ボーナス支給額別)



貯金する理由: 1位「今後の生活費の補填」消費よりも将来への不安から貯蓄に回す傾向

自由に使えるお金の使い道を「貯金」と答えた理由として、もっとも多かったのは、「今後の生活費の補填のため」で63.3%。次いで多いのが「年金など将来が不安だから」(31.7%)であり、「家や自動車など大きな買い物をするから」(26.9%)を上回っていることから考えても、消費行動というよりも、漠然とした将来への不安から貯蓄をするという人が多いようだ。

【貯金をする理由をお選び下さい(図7で貯金を選んだ方への質問/複数回答)】

【今冬のボーナスで購入する商品(図7で商品購入を選んだ方への質問/複数回答)】

【購入したいと思う製品名(フリーアンサー)】

詳細結果・グラフはこちら <http://kakaku.com/research/backnumber024.html>

■総評 鎌田剛 カカコム メディアクリエイティブ部 部長

今年冬のボーナスは、アメリカに端を発する世界的な金融不況や、円高などによる輸出産業の不振により、製造業を中心に全体的に支給額が下がる傾向にある。こうした世相を反映して、今回のボーナス調査でも、支給予想額の平均は前年を7.5%下回る58万円となることがわかった。今回のボーナス減少については、世代・性別を問わず全体的に下がっているのが特徴で、すべての層で減少傾向にあるが、なかでも減少率が高いのが働き盛りの40代という結果になった。

この層は、扶養家族の数も多くさまざまな必要経費の額が大きいこともあり、家計を直撃する形となりそう。ボーナスのうち、ローン返済や生活費などに使う必要経費を除いた自由に使える金額も全体的に減少傾向で、使い道トップの「貯金」ですら、前年に比べて半額以下の8.8万円となっている。こうした厳しい家計状況にあっては、一般消費に回せる金額は減少するほかなく、冬のボーナスで商品購入などにあてられる金額は平均でわずか4.1万円という厳しい結果となった。家庭の財布の紐の引き締め具合は非常に強く、今年の冬のボーナス商戦はかなり厳しいことが予想される。

ただ、消費者の消費意欲がそがれているかという点、決してそんなことはない。この冬のボーナスで購入する商品では、ほとんどの製品が昨年を上回るポイントを示しており、不況であることは感じながらも、購入意欲そのものはそれほど衰えていないと見ることができる。ボーナスで購入する商品でもっとも多いのは「洋服・ファッション関連」であるが、今年人気の「ブルーレイレコーダー」や、また比較的安価な「PC パーツ」や「ゲームソフト」などは、昨年よりもむしろ購入意欲が高まっている。

また、家電関連の人気ではナンバーワンの「液晶テレビ」も、製品自体の価格下落がかなり進んだこともあり、昨年と比べて伸びこそしないものの、購入意欲が下がっているわけではない。液晶テレビなどは市場が成熟し手に入れやすい価格となってきた今が商品の買い時であり、価格.comに訪れるユーザーもこの冬ますます増加している。そういう意味では、ボーナス支給額は若干減るものの、価格比較サービスなどを活用しながら、欲しかったものをなるべく安く購入したいという消費者の数はむしろ増えているといえそうだ。

※フリーアンサーを含む詳細結果、および過去のリサーチアーカイブは以下URLをご参照ください

<http://kakaku.com/research/backnumber.html>

【価格.comについて】

パソコン、家電、カメラをはじめ、ブロードバンドや携帯料金プラン、自動車保険、生命保険など約2,800万点の商品・サービス情報を掲載。
月間利用者は、約1,489万人(重複なし)、蓄積されたクチコミは累計で860万件を超える。
(データは2008年10月末現在)

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社カカコム 広報担当 内山 甲斐

e-mail: pr@kakaku.com Tel:03-5805-7511